農作業事故を防ごう

今年は、春先からの天候不順で農作業が遅れてスタートし、焦りを感じての作業が多いことと思います。

一　農作業事故の状況

北海道農作業安全運動推進本部による農作業事故報告書を見ると、近年、農作業事故発生件数は、横ばい状態です。

死亡者は平成一六年以降減少してきましたが、平成二０年から増加傾向にあります（図１）。

死亡事故は、トラクタを筆頭に農業機械によるものが８割と圧倒的に多く、負傷事故では農業機械によるものが４割弱、家畜に伴う事故が３割、その他（高所転落・人の転倒他）が３割となっています。

また、農業就業者千人当たり事故件数で見ると、釧路管内は道内では残念ながら高い方で、しかも増加傾向にあります。（図２）。

さらに、事故を年齢別に見ると、六０歳以上の死亡事故が特に目立って多いようです。

一日の中では、午前十～十一時と午後三～四時で多く発生する傾向があります。

事故の発生場所は、畜舎、サイロ、堆肥場で負傷事故が最も多く、道路での事故は死亡事故になり易いという特徴もあります。

６月は、牧草の収穫作業を迎え、多忙な時期となります。

事故が発生すると、その年の作業ができなくなったり、死亡事故などでは、最悪の場合、経営を断念せざるを得ない事態にもなりかねません。

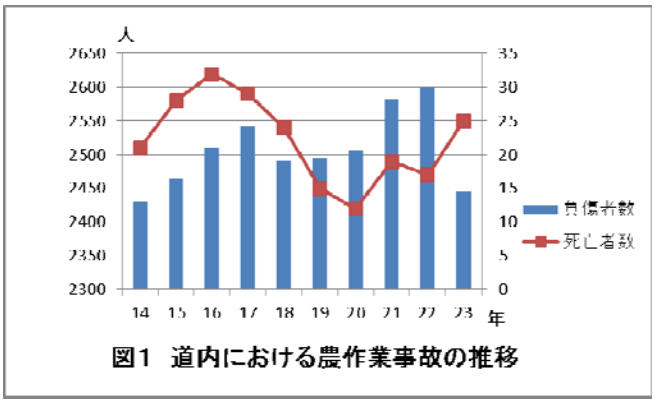


図１　道内における農作業事故の推移

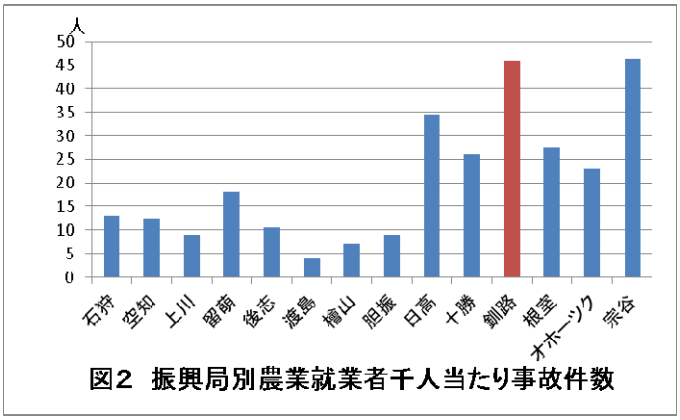


図２　振興局別農業就業者千人当たり事故件数

二　農作業事故を防ぐために

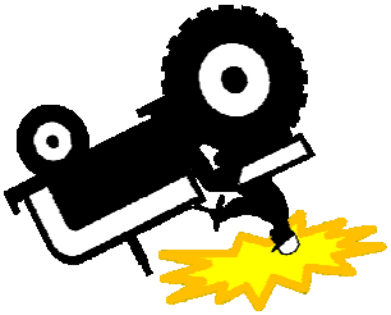
農作業による事故の大半は、慣れや油断から起きています。常に「安全」を意識、確認し、余裕をもって慎重に作業しましょう。

（一）　作業に適した服装で

（二）　機械整備は必ずエンジンを止めてから

（三）　作業の合間に休憩を

（四）　ほ場への移動、出入りには十分気をつけて



2013年農作業安全確認運動ステッカー